

文 學 博 士
金 澤 庄 三 郎
編 纂

廣
辭
林

新

三 省 堂 發 兌

文學博士
金澤庄三郎編纂

廣 辭 林

新
訂
版

株式會社
三省堂發兌

大正十四年九月二十一日 發行
 大正十四年九月二十五日 發行
 昭和二年三月十九日 發行
 昭和三年三月十五日 發行
 昭和四年九月一日 發行
 昭和五年三月二十五日 發行
 昭和六年九月一日 發行

昭和七年五月二十日 百版發行
 昭和八年八月一日 百五十版發行
 昭和九年三月五日 新訂第六十版發行
 昭和九年三月二十日 新訂二百版發行
 昭和九年四月二十五日 新訂三百版發行
 昭和九年四月二十日 新訂三百版發行



發行所

〔東京市神田區神保町一丁目一番地〕
 振替口座東京三一五五五番
 〔大阪市西區阿波座下通二丁目六番地〕
 振替口座大阪八一三〇〇番

編纂者

金澤庄三

發行者

株式會社 三省堂

印刷所

株式會社 三省堂蒲田工場

東京市神田區神保町一丁目一番地
 東京市蒲田區出雲町一〇一番地

代表者 龜井寅雄

廣辭林(新訂版)
 定價四圓八十錢
 特價三圓九十錢

株式會社 三省堂
 株式會社 三省堂大阪支店



あつめおく辭の林ちりもせでちとせかはらじ和歌のうら松

(續千載和歌集)

廣辭林出でてより已に十年、辭林のそもその始より數ふれば實に二十有八年、其間本書は終始多大なる好意を以て迎へられ、今や全國到る處に其普及を見ざるはなく、滿洲國・中華民國の如き東亞同文の諸國は勿論、遠く歐米の學界にも愛用せられ、「ソビエツト、ロシア」に於て本書を底本として日本語辭書編纂の舉ありと聞くに至つては、本著の世界的進出を喜ぶと同時に、其責任の重大化を痛感せざるを得ざるなり。されば著者は片時もたゆむところなく、日夜修訂のことにいそしみ、今次恙なく其業を了して、この新訂版を發行することを得たるは、いつもながらの好運を祝福して止まざるところなり。

本書は名は新訂版なれども、其實全篇盡く檢覈を新たにしたるものにして、收むるところの語數無慮十萬を超ゆるに至り、語釋の修整、新語の増補、語原の添加いづれも面目を一新せるものあり、一字一句これを苟もせず、最終の校合に至るまで自から手を下したる點に於て、聊か意を安んずべきものあるを信ず。

さりながら遺漏誤脱は此種の著作に於て免れ得ざるところなれば、著者は向後一意精進本書の大成に向つて努力すべきは勿論なれど、大方の諸賢も亦従來本書に寄せられたる同情と渝ることなく、鞭撻激勵著者をして其志を遂げしめられんこと、これ著者衷心よりの願なり。

昭和九年三月

東京本郷曙町にて

金澤庄三郎識

凡 例

一、語詞の排列は五十音順に従ひ、促音は「ツ」の部に、撥音「ン」は最後即ち「ワ」行の後に置きたり。
一、純粹の國語は歴史的假字遣に據れること勿論なれども、尙ほ其直下に細注を施して寫音的假字をも挿入せり。

一、英・佛・獨・露・伊・西・蘭並びに羅・匈・希・臘等の古代及び近世歐洲語は總て寫音的假字遣を用ひ、且つこれを表はすに片假字を以てせり。

一、本書の語彙中に出でたる漢字音は古今を通じて總て寫音的假字遣に據れり、これ本書の一大特色にして、其理由とするところは、現代の社會に於て字音假字遣の實用は極めて稀なるのみならず、若しこれに従ふときは語辭の檢出甚しく不便にして、辭書の天職は半ばこれを没却すべき弊あればなり、されどなほこの古假字遣をも一々其下に「符」を冠してこれを注記し、一舉兩得の便法を採り、語釋中に出でたる漢字も亦總て正確なる字音假字遣に據れり。

一、國語中假字遣の誤り易きものは、特に其寫音假字を掲げてこれを語辭の列中に加へた

れば、本書には、發音索引の一綱を除き、難訓、字音の兩索引を添附せり。

一、難訓索引は漢字の全畫と部首とを以てこれを索む、柀の九畫木部に從ひ、隼の十畫隹部に從ふが如し。熟語はその頭字に就きてこれを索むべし。字音索引は漢字の全畫を以てこれを索む、丁の二畫に從ひ、金の八畫に從ふが如し。

一、本書中に使用せる寫音的假字遣は、大體に於て文部省假字遣改正案に從ふ。字音の「ジ」「ヂ」は悉く「ジ」「ズ」「ヅ」は悉く「ズ」「シャウ」「セウ」「セフ」「ショウ」は悉く「ショウ」としたる類にして、國語に於ては、「ハ」行、「ワ」行、「ア」行音の相混同したるものなど、總て其發音に準じてこれを表はせり。

一、語原に關する事項は、著者自から所見ありて、古來の所説概ね探るところなし、本書に載するものは其量に於て微々たりといへども、著者年來比較研究の結果に出づるもの多し、庶幾は學界に若干の生氣を加ふるを得んか。

一、本書の編纂に關しては、足助直次郎氏終始予を助け、拮据精勵三十年一日の如く、克く其業を完からしめたり、茲に特記して謝意を表す。

春の花のあした、秋の月のゆふべ、おもひをのべ、心を
うごかさずといふことなし、ある時には絲竹のしら
べをととのへ、ある時には大和もろこしの歌ことば
をあらそふ、敷島のみちのさかりにおこりて、心の泉
古よりも深く、辭の林昔よりもしげし

(千載和歌集序)

表 語 略

(名).....名詞
 (代).....代名詞
 (數).....數詞
 (自).....自動詞
 (他).....他動詞
 (形).....形容詞
 (助動).....助動詞
 (副).....副詞
 (助).....助詞
 (接).....接續詞
 (感).....感動詞
 (接頭).....接頭語
 (接尾).....接尾語

(枕).....枕詞
 (四).....四段活用
 (下二).....下二段活用
 (上二).....上二段活用
 (上一).....上一段活用
 (下一).....下一段活用
 (か變).....加行變格活用
 (ら變).....良行變格活用
 (さ變).....佐行變格活用
 (な變).....奈行變格活用
 (形一).....形容詞ク活用
 (形二).....形容詞シク活用

【神】.....神祇
 【哲】.....哲學
 【佛】.....佛教
 【宗】.....宗教
 【心】.....心理學
 【倫】.....倫理學
 【論】.....論理學
 【政】.....政治學
 【教】.....教育學
 【社】.....社會學
 【法】.....法律學
 【經】.....經濟學
 【動】.....動物學
 【植】.....植物學
 【礦】.....礦物學
 【理】.....物理學

【機】.....機械學
 【天】.....天文學
 【醫】.....醫學
 【化】.....化學
 【數】.....數學
 【農】.....農學
 【林】.....林業
 【工】.....工業
 【商】.....商業
 【漁】.....漁業
 【建】.....建築
 【藥】.....藥劑
 【船】.....船艦
 【生】.....生理及生物
 【地】.....地質及地文

あいざーあいなす

と。●照接。應對。◎返辭。返答。◎答禮。返禮。◎あつかり。仲税。――にん[挨拶人]一名 あいさつ に出る人。――は時の氏神(句) 喧嘩口論の仲裁は、時にとりて氏神のやうにありがたきものなれば、其言に従ふべきをいふ。

あいざん[愛餐] Abate[名] [宗]古昔「キリスト」教徒が聖餐後後寺院に持ち寄りてなしたし會食友愛と慈善との主義を以て行ひしものなり。

あいな(哀史)一名 あはれなる物語。

あいな(愛兒)一名 いとし。

あいな(愛日)一名 「佛」愛にひかざるよ。愛情にほはるよ。

あいな(愛者)一名 「佛」愛にひかざるよ。愛情にほはるよ。

あいな(哀傷)一名 悲しみいたむ。

あいな(愛妾)一名 氣に入りのめかけ。

あいな(愛情)一名 互に和合して他の幸福安寧を希ふよ。愛情めてつくしむこと。

アイズル [Idyl] 名 田園の風物事件等を叙したる一種の短詩。牧歌。田園詩。

アイジングラス [Jingalass] 名 魚類の洋囊の内側より製

アイス [Ice] 名 ①こほり水。②アイスクリームの略。其意譯の水菓子もちりていふ高利貸の俗稱。――ボックス [Ice-box] 名 冷蔵庫。冷蔵庫。

あいな(他、さ愛) ①いとはしく思ふ。かほゆる思ふ。②おもんず大切にす。③たのしく思ふ。このむ。④たて難く思ふ。をしむ。⑤こほしく思ふ。またふ。――れば其醜を忘る(句) [呂氏春秋に出づ] 人を愛するの情は、其みにきに少しも氣づかざるをいふ。

アイスクリーム [Ice-cream] 名 一種の食品。牛乳に砂糖を加へて煮沸し、これに雜卵の黃身をまぜ、製氷器に入れて水結せしめたもの。氷菓子。――サンデー [Ice-cream sundae] 名 「アイスクリーム」の上に、果物の汁及切片をかけた一種の飲料。――ソーダ [Ice-cream soda] 名 「アイスクリーム」を「ソーダ」水にて

あいせーあいた

割りたる一種の清涼飲料水。

あいせき[愛惜]一名 をしむと。をしみ。

あいせき(哀惜)一名 人の死をかなしみをしむと。

あいせん[愛染]一名 「佛」明王の一名。佛法護持の神。全身赤色。三日怒眼。六臂に杵(杵)・鈴(鈴)・弓箭(弓箭)・蓮華(蓮華)を執り光嚴中に住す。――ぼんぼん[愛染法]一名 「佛」密教にて、愛染明王を本尊として、具與・利福等を祈る修法。

あいそ(哀訴)一名 あいぐん(哀願)。

あいそ(愛想)一名 あいさう。――づかし[愛想盡]一名 あいさうがし。

あいさう[愛想]一名 ①愛敬あると。人すきのすと。②嫉妬をとると。なぐさむと。③もてなし。應對。④よしみ。愛情。――づかし[愛想盡]一名 ①よしみを絶つと。②よしみを絶つて就きて、其人を罵る言。――が盡きる(句) 興醒て其人に對する愛想もなくなる。――を盡かす(句) とりあはぬやうになる。

あいぞう[愛憎]一名 愛するとにくむと。

あいそく[愛息]一名 かはゆる子息。

あいそん[愛孫]一名 かはゆる孫。

あいだ[間]一名 あひだ。を見よ。

あいだ(間)一名 あひだ。を見よ。

あいだ(變態)一名 雲のたなびきたるさま。①とはめがね。ちうがんきやう。

あいだ(他) ①愛他主義 ≡ Altruism [名] [倫]他人の幸福を増進するを以て、道德上の行為の標準となす主義。あいだ(無) ①間隔無(形)。(形) ①あひだなし。の(轉) ①わけへだてなし。うちつけなし。②愛想なし。すげなし。いとや。

あいだ(無) ①間隔無(形)。(形) ①あひだなし。

あいだ(朝所) ①あしたこの。

アイデンティティ [Identity] 名 ①アイデンティティ [名] (拉丁語 *Identitas* の轉) ①同一性。②「社」アメリカ



[んぜいあ]

あいたーあいな

合衆國に於ける一種の社會革命的勞動團體、西紀一九〇五年頃に起りしもの勞動問題の勃興に従ひて發展せり。

あいた(愛垂)一名(自ら下) あまえたる。あまゆ。なまめきあいだれて(たまひま)し。

あいた(朝所) ①あしたこの。

あいた(彼奴) ①あやつ。あのやつ。まつ。

あいた(哀痛) ①かなしみいたむと。

アイデア [Idea] 名 理想。②意見。③智願。

アイデア [Ideal] 名 理想。②意見。③智願。

アイデア [Idealize] 名 理想化する。理想化する。

アイデア [Idealist] 名 理想家。理想主義者。②「智」唯心論者。觀念論者。

アイデア [Idealism] 名 理想主義。②「智」觀念。③「唯」唯心論。

アイデア [Idealistic] 名 理想的。②空想的。③典型的。

あいた(哀悼) ①人の死をかなしみいたむと。

あいた(哀憤) ①かなしみてなきさげと。

あいた(愛讀) ①好みて讀むと。――とや[愛讀者]一名 愛讀する人。

アイドル [Idol] 名 偶像。②謔稱。妄想。③秘藏物。

アイドルシステム [Idol-system] 名 (社)工場経営に於ける一種の失業救済の便法、経営者が生産を減らすを目的とし、職工従業員等の解雇を行はずして、労働時間の一部を廢業し以て賃金の低下を計るもの。

あいな(無) ①間無(形)。(形) ①あひなし。②あひなし。――(愛無) (形) ①かほゆるなし。②おもふ。

あいな(名) ①あてにならぬたのみ。そらだのみ。

あいな(動) ①あゆなぬ。の。

あいな(北海道者土) ①あやなく。

あいな(名) 北海道住士の稱。

あいな(名) 北海道士の稱。

あいな(名) 千鳥等に散住す。皮膚。稀色。目凹み。齒黄しく。體毛多し。特種風俗を有す。古昔には蝦夷と呼ばれた。あいな(名) は、元來彼等の語にて愚考者の義なるが、轉じて其種族の名となり。



[あいな]

あいの(名) あいぬ。 「りさすと。

あいぶ(愛撫) (名) かはゆがりやすんずと。又、かはゆが
あいつり(愛別離) (名) 佛に愛する人と心ならず別る
ると。——く(愛別離苦) (名) 佛八苦の一、愛する人
と心ならずも別る、苦痛。

あいは(愛慕) (名) いつくしみたまふと。
あいは(哀慕) (名) かなしみたまふと。

アイボリー [Ivory] (名) 厚くして光澤ある一種の西洋紙、
名刺等を作るに用ふ。——ブラック [Ivory-black] (名)
黒色にして光澤ある一種の油精具。

あいま(曖昧) (名) ①明白ならざる。たしかならざる
と。②うろくろきと。③や(曖昧屋) (名) 怪しげな
る女を抱へおきて、客を呼ぶ家。

あいまん(愛民) (名) 人民を愛し其福利を念となす。

あいまん(哀感) (名) あはれみ。なまけ。

あいや(隘勇) (名) 臺灣にて、もと生蕃の來襲に備へら
れし土民の壯丁。——せん(隘勇線) (名) 臺灣にて、隘
勇が生蕃の來襲を警戒せし歩哨線。

あいやく(愛慾) (名) 佛に愛着と欲望と。

あいらく(愛染) (名) このみ染しむと。

あいらし(愛) (名) ①形。二、かはゆらし。——げ(愛
氣) (名) かはゆらしさま。——さ(愛) (名) かはゆら
しさと又、其度合。

アイリス [Iris] (名) 寫眞にて、映像を擴大し又は縮少せしむ
る装置。——アウト [Iris out] (名) 映畫にて、スクリ
ーン上の全體が或、點に向かひて徐々になくつて、スクリ
ーン [Iris in] (名) 映畫にて、スクリーン上に於ける一
點が次第に周圍に擴大して、畫面全體の明るくなる。

あひれん(愛憐) (名) なまけ。いつくしみ。

あひれん(愛戀) (名) あはれみ。なまけ。

あひれん(哀憐) (名) こひたまふと。

あいろ(文色) (名) すず。けちめ。あやめ。

あいろころ(名) 副。ここかし。はうばう。
アイロニー [Irony] (名) あてこすり。反語。

アイロン [Iron] (名) ①(化) 鐵。②鐵製の西洋形火のし。③
理髪用のこて。

インフェルナル [Infernal] (名) (心) 或對象によ
りて起こる感情が、自己の主觀的感情と合する作用。

あう(合) (自) 「あふ」を見よ。

あう(遇) 逢(會) (自) 「あふ」を見よ。

アウエルとら(燈) [Auer's lamp] (名) 白熱燈。
アウト [Out] (名) ①「out」の。② ロンテニスにて、球
を場外に打出して敵に一點を得らるゝと。③「アウトスポー
ル」 [Out-let] にて、競技者が技術を誤りて戲件を退く
と。——オペレーター [Operator] (名) 時代後(れ)。
陳腐。舊式。——オフファッション [Out-of-fashion]
(名) 仕事後(れ)の。舊式。——カーブ [Outcurve] (名)
野球にて、魔球の一種、本塁近くなりて急に右打者なれば左
方に、左打者なれば右方に曲がらる。——ドアーセット
[Outdoor set] (名) 映畫にて、屋外舞臺装置、即ち野外に
舞臺を設けたる一種の撮影場。——ドラン [Outrop]
(名) 野球にて、魔球の一種、本塁近くにて急に右打者なれば
左方に、左打者なれば右方に曲がらる。——フールド [Outfield]
(名) 野球にて、外野即ち左
翼手、中翼手、右翼手によりて占められたる地域。——フキ
カス [Out focus] (名) 映畫にて、焦點を故意に外した
る一種の撮影技巧。——プレーヤー [Outplayer] (名)
籃球にて、守備側。——ライン [Outline] (名) ①概略。
②輪郭。③磁球にて、「テニスコート」の外圍線。——
アウトサイド [Outside] (名) 外部。外面。外側。——キック
[Outside kick] (名) 蹴球にて、足の外側を用ひて球
を蹴ると。 [今傳はらず]

あうら(足占) (名) 足にてせし古昔の占法、其詳かなると

アウロラ [Aurora] (名) (地) 曙光。

あうん(阿吽・阿伝) (名) 佛(の)悉曇音韻學にて、「あ
を一切開口の始め、「うん」を諸聲合聲の終りとす。 (の)

密教にて、一切諸法の初終を意味し、「あ」を萬有發生の理體
とし、「うん」を萬有歸着の智徳となす。(は)寺院の三門に安
置せる二王の像、其(一)は開口し他(一)は合聲せるよりいふ。
(に)氣息の出入。——の呼吸(句) 相撲にて、雙方の互に
立ちあがりとする氣合。

あえか(名) ①かよわさと。②いたいけなと。

あえく(喘) (自) 「あへ」を見よ。

あえまら(他) 「あへまら」を見よ。

あえな(取) (副) 「あへ」を見よ。

あえなし(取) (形) 「あへなし」を見よ。

あえもの(背者) (名) あやかりもの。

あえもの(靈物) (名) 「あへもの」を見よ。

あえん(亜鉛) [Zn] (名) 「あへん」を見よ。

然には方亜鉛、菱亞鉛等となりて存在す、適度に熱すれば
展性を得、薄板となすべし、強く熱すれば再び脆くなり、遂
に燃えて白色の酸化亜鉛を生ず、濕氣に觸るとも、表面のみ
酸化して内部に及ばざる故に、鐵線・鐵板を被ふに廣く用ひ
られ、又真鍮・洋銀等の合金を製するに用ひらる。——か
つ [亜鉛華] (名) ①白色の粉末、成分は酸化亜鉛にして、
水に溶解せず酸類に溶解し、顔料及醫藥に用ひらる。——
びん [びん] [亜鉛鐵] (名) ①鍍し亦ひの紅亞鉛鍍と
共生する黒き礦物、亜鉛・鐵及稀薄の酸化物なり。——ばん
[亜鉛版] (名) 一種の印刷版、磨研したる亜鉛の面に描畫
し、タンニン・酸又は樟酸とアラビヤガムとの混合液を用
ひて版蝕せしめ、其上に、インキを按じて印刷す。——まつ
[亜鉛末] (名) 亜鉛の粉末。——めつき [亜鉛鍍金]
(名) (化) 鍍の鍍を防ぐため、其表面に亜鉛の薄被を施すと。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あお(一) (名) 「あを」を見よ。

あいろーあうん

あえかーあおの

あおむし-あかち

あおむし(仰)自、他「あをむく」を見よ。
 あおり障泥(名)「あふり」を見よ。
 あおる(煽)自、他「あふり」を見よ。
 あか(赤)(名)「七色の一、血の色に似たるもの。」「赤化。主
 あか銅(名)「銅」あかがね。
 あか(垢)(名)「あせ」「あぶら」などの塵とまじりて肌
 附着したる汚物。「附着したる流動體のかす。自身不行
 あか(塗)(名)船中にたまりたる水。「狀。心のわだかまり
 あか(團)名(梵)Archa(佛)佛前又は幕前に
 供ふる淨水。「爾じて、淨水を盛る器。
 あか(赤)接頭 或語に短して、あらはなるさま又は全き
 さまを表はす語。「うさだか」「うささま」
 あかあか(明)名、副 頗るあかるさま。
 あかあつき(赤)小豆(名)「種」小豆の種子の帯赤色なる
 もの。「るもの」
 あかあは(ア)赤粟(名)「種」もちあはの種子の帯赤色な
 るもの。「るもの」
 あかあり(赤)蟻(名)「動き」あり。「の唐名。
 あかあり(ア)亞槐(名)「三槐即ち三公に亞つて義」大綱言
 あか(赤)形 あかし。——あんによ「赤信女(名)
 (「天と同穴の赤心を表すため、未亡人が亡夫の石碑に、自
 りの法名を共に刻みて朱字となしおく古來の風習なるよ
 りい」)とぞ。未亡人。
 あか(赤)糸(名)「赤絲絨」名 織の絨毛の名、舊「赤」染の
 絲にておとしたるもの。「て、味の佳良なるもの」
 あか(赤)芋(名)「種」「さつまいも」の一種、皮赤し
 の葉赤色なるもの。たうのいも。
 あか(赤)色(名)「あかき色。」「かざね」の色目、表
 は赤にして、裏の二藍なるもの。あかばな。「織物の色」
 紫にして「赤」赤き名。
 あか(赤)い(赤)鱧(名)「小腰をまぶせたる鱧を、鹽漬に
 しかし又は乾したるもの、節分の日にこれを「ひらざき」の木に貫き
 て戸口に挿し、おにやらひに用ふ。」「赤く鞠びたる刀」
 あか(赤)魚(名)「動」鰻類の魚、體は扁平、口

あかち-あかえ

大きく下顎隆起す、體色は臀部紅色にして腹部淡し、體長二尺
 餘に達す、深海の岩礁に棲む、北海に多し、肉味美ならず。
 あか(赤)ち(高)四五丈に達す、梢より氣根を垂下して、臺灣地
 方に新しき樹幹となり、横に平かに繁茂す、葉は長柄を有し、
 橢圓形にして全縁、「いちぢく」に似たる隱頭花を著く、果實
 は小球状なり、材質堅、木理美しく、諸種の用に供せらる。
 あか(赤)ち(赤)浮草(名)「種」槐葉蘋(浮萍)科
 の多年生水草、湖沼、池澤、水田等に繁く浮生し、水面を紅
 色又は綠色ならしむ。
 あか(赤)ち(赤)嘘(名)全くのいつはりごと。
 あか(赤)ち(赤)鱧(名)「動」口類の魚、骨鱗なく、口唇に
 數條の皺を生ず、鼻腔は口腔と通じ、眼は甚だ不完全にして
 皮下に隠る、體長一尺許、海に産し、口を以て他の魚體に吸著
 し、時には其體腔内に穿入して内部寄生を營むとあり。
 あか(赤)ち(赤)鱧(名)「動」海鰻の一種、形狀、習性
 共に、あかちがめと酷似し、色は褐色を帯ぶ。
 あか(赤)ち(赤)漆(名)「動」陶器に掛ける赤色の繪。
 あか(赤)ち(赤)鱧(名)「動」えその一種、形、えそに似、脊
 部赤色にして淡黒の斑點あり、腹は白色にして深紅と淡紅と
 の横條あり。
 あか(赤)ち(赤)蝦夷松(名)「種」松柏科の常綠喬木、
 北海道に産す、樹皮は赤褐色にして枝條細く軟かなり、針葉
 は細く、枝に藍綠色をなして着生す。
 あか(赤)ち(赤)鱧(名)「動」横口類の魚、胸鰓頗る擴張し
 て、體腔は闊形をなし、扁くして
 長き尾を有す、尾の中央に劍狀
 の鋭き棘ありて、背の中央に砂
 粒狀の突起鱗生す、體色は青淡
 黄にして腹白し、鰓孔は口と共に
 下面に開く、體長大なるは三尺許に達す、近海の泥砂中に棲
 息し、七八月の頃胎生す、我國西南南海に多く産す、食用に供せ
 る。
 [ひえかあ]



あかえ-あかか

あか(赤)え(赤)蝦(名)「動」蝦の一種、普通近海に見るもの、
 長さ約三寸、體は赤褐色、短毛を生ず。
 あか(赤)え(赤)地(名)「赤地の襪、少女の用ふるもの。」「
 十七歳の少女、特に藝妓などにいふ。」「あかえりちゅう。
 ——ちよう「赤襟」(名) 東京市營自動車的女車
 掌、其服の襟の赤き故にいふ。
 あか(赤)おどし(赤)絨(名)「あかいとおどし」及「あかがはお
 どし」の總稱。
 あか(赤)おどし(赤)大口(名)紅の生絹などにて仕立て
 あか(赤)おどし(赤)麩(名)色の赤きかうち。
 あか(赤)か(赤)酸漿(名)「種」ほづき。「鹿毛」
 あか(赤)か(赤)鹿毛(赤)鹿(名)馬の毛色、赤みを帯びたる
 あか(赤)か(赤)瘡(名)「病」はしか。
 あか(赤)か(赤)瘡(赤)血(名)「種」穀科の常綠喬
 木、暖地に生す、高さ三四丈周圍丈餘に及ぶものあり、樹皮は
 粗にして翠黒、葉は橢圓形にして尖り、長き葉柄を有す、幼時
 は細毛生じ、成長すれば平滑となる、五月頃小花を開き、堅果
 を結ぶ、木材は帯赤色を呈し、種々の用に供せらる。
 あか(赤)か(赤)は(赤)柏(名)「種」あかがはしは。「赤飯」
 「膳回りに物なし」。
 あか(赤)か(赤)すげ(赤)槽毛(名)馬の毛色、槽毛の赤みを帯びた
 るもの。「紫色なるもの」。
 あか(赤)か(赤)た(赤)酸漿草(名)「種」かたはみの葉の紅
 あか(赤)か(赤)方(赤)合羽(名)紅「がら」色の桐油紙にて製した
 る合羽、徳川時代以下おもに着用したり。
 あか(赤)か(赤)に(赤)蟹(名)「動」蟹の一種、山谷溪間又は河堤等
 に穴居す、小形にして蟹「赤」赤し。やまがに。
 あか(赤)か(赤)ね(赤)銅(名)「赤金の義」(化)淡赤色の
 光澤を帯びたる金屬、天然には純銅、硫銅となりて存在
 す、展性及延性に富み、銀に次ぎて熱及電氣の良導體なり、澁
 氣中にて銹色の錆を生じ、空氣中にて熱すれば、黒色の酸化
 銅を生ず、用塗甚だ廣し。
 あか(赤)か(赤)おどし(赤)革絨(名)織の絨毛の名、舊「うさだ
 か」の革にておとしたるもの。

あかがはらわら(赤瓦)一名 鐵分の酸化して赤色を呈せる瓦。轉じて安價なる文化住宅又は文化生活。

あかがひ(赤貝)一名 動物轉體類の内、介殻は心臟形に産し、淡水混和せる浅海の泥中に棲息す肉色赤く、食用とす。

あかがへる(赤蛙)一名 動物、かへるの一種、體色澤赤色にして暗褐色の斑點あり指趾の末端尖り、よく跳躍す、肉は小兒の疳積として效ありといふ。

あかかみきり(赤天牛)一名 動物、天牛の一種、頭部は三角形にして濃赤色を呈す、杉材の害蟲なり。

あかがり(輝)一名 あかざ。

あかき(闊伽器)一名 闊伽を供する器具。

あかき(赤木)一名 植物、大戟科の常木、葉は三出複葉にして、細小なる花を簇生す、材質堅牢にして色赤く、白色の木理あり、琉球・臺灣・印度等より渡來し、唐木細工に用ひらる。皮をけづりたるままの材木。一づか(赤木柄)一名 木地のままなる刀柄。

あがき(足掻)一名 あがくと。一木に「足掻死」一名もがき苦しみて死ぬると。

あかきころ(赤心)一名 いつはりなき心。まごころ。

あかき(赤雄)一名 動物、きんけい。

あかきつ(赤切符)一名 汽車の三等乗車券、其赤色なるよりいふ。轉じて、下等又は安直。

あかきぬ(赤衣)一名 緋色の袍、五位の朝服。赤色の狩衣を着し袴は遠侍の下司。

あかきび(赤赤、丹黍)一名 植物、もちまぎの穂の色赤きあかきり(赤桐)一名 植物、ひり。

あかざ(輝)一名 赤切の義、さむさにあたりて、手足の皮の裂けたるも。あがき(自、か四) 駒など前足にて地をかか(露) けくせく。

あかくさ(赤草)一名 植物はうきさ。

あかくすり(赤薬)一名 人參と辰砂とにて製したる赤色の丸劑、昔時、藥料に用ひしもの。

あかかーあかく

あかとそく(赤具足)一名 小札を赤き漆にて塗り、赤緋にしたる具足。

あかくち(赤朽葉)一名 かさねの色目、うす紅に黄を帯びたるもの。

あかくみ(澄波)一名 あかとそく。

あかくりげ(赤栗毛・黄鬣)一名 馬の毛色、栗毛に赤みを帯びたるもの。

あかけ(赤毛)一名 赤はみたる毛髪。馬の毛色、黄赤あかざつ(赤毛布)一名 赤色の毛布。都會見物に出でたる田舎もの、其赤毛布をまよふよりいふ。

あかむし(赤毛蟲)一名 動物、蛾類の幼蟲、八月頃現はれ、桑の羽化に接し、九月の天、土中に入りて蛹となり、翌年五月頃木中に棲す、採るの害蟲なり。

あかげら(赤啄木鳥)一名 動物、啄木鳥の一種、背は黒色にして白き斑點あり、頭及腹の下部は赤色にして、腹の上部は茶褐色を帯ぶ、雌は稍色を異にす。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかこ(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかくーあかさ

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかき(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかさーあかし

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。

あかし(赤子)一名 生まれてほどへぬ小兒、嬰兒。



【ごんさかあ】

あかしーあかそ

香木 山野に生ず、高さ四五丈、樹皮は平滑にして黒褐色を呈す。葉は互生し、橢圓形にして縁齒を具ふ。花は四月頃に開き、雌雄同株にして形を異にす。材は淡黄白色にして、器具の柄と、推針を作る料とす。

あかまほしー【赤潮】一名【地】硅藻類又は微細生物の群集により、普通に赤褐色を呈したる海水、生物に害を及ぼす。

あかまみー【垢染】一名【垢】垢にまみれる。あかまみー【垢染】一名【垢】垢にまみれる。あかまみー【垢染】一名【垢】垢にまみれる。

あかまきー【赤蝦蛄】一名【動】蝦蛄の一種、大さ車海老に匹敵し、全長七八寸に達す、前脚の脚一對は鰓となり、背面上には發形の軟甲あり、陸地の海に産す。

あかまららー【赤白髮】一名【赤】赤みを帯びたるまらら。

あかすけりー【明】一名【他】あきらかにす。あかすけりー【明】一名【他】あきらかにす。

あかすぐりー【龍】虎耳草科の落葉灌木、「ヨーロッパ」の原産、各地に栽培せらる、莖三四尺、葉は掌狀に三裂し、裂片は不齊の鋸齒を有す、四月頃、葉腋に淡緑色の總狀花を開き、甘味ある紅色の漿果を結ぶ。

あかすさー【赤筋】一名【古】絹を水に浸して切りたる苧。

あかすぢけむしー【赤筋毛蟲】一名【動】毛蟲に著く毛蟲、背上に赤褐色の線あり、體面に灰色の毛を生ず、八月頃、現はれて襟の葉を食ひ、九月の末、土中にて蛹となり、翌年六七月頃羽化す、機の害虫なり。

あかすぢばちー【赤條蜂】一名【動】蜂の一種、黒色大形にして、翅は赤褐色、第三腹節に普通二箇の赤黄斑紋を有す、胸角の上には黄色、前頭廣く、複眼は卵形なり、農家に益あり。

あかすぢみー【赤砂】一名【こ】こがら。

あかすぢりー【垢磨】一名【入浴】入浴のとき、身體のあかすぢりおとすに用ふる細吳綿などの巾。

あかそー【赤苧】一名【植】「からむし」の一種、山野に生ず、高さ二三尺、莖赤く莖對生す、夏日夜を開く、莖皮より絲を採り

あかたーあかつ

又は綿を製す。あかたー【阿伽陀】一名【梵語 Agada】【佛】一種の辟毒劑、辟毒に用ふ。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかたー【縣】一名【政】田の漑。あかたー【縣】一名【政】田の漑。

あかつーあかな

あかつめくさー【名】【植】豆科の多年生草本も、ヨーロッパの原産なれど、今は各地に分布し、野生の状をなす。莖は地に伏し、高さ一二尺、葉は掌狀複葉にして、小葉は卵形をなす。夏日、葉間に花軸を抽き、紫紅色の蝶形花を開き、莢を結ぶ、牧草又は肥料に供せらる。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。あかつらー【赤面】一名【あ】あかたの顔色、おもに人を罵るに用ひ。

あり、西洋料理に用ふ。トマト。

あがなひびく(贖)(名) あがなふと。あがなふと。

あがなふ(贖)(名) 贖(他、は四) 金銭又は物品を出
だして、罪過の責めをまぬかる。うめあはせをなす。買
物などをうけ出だす。

あがなふ(贖)(名) 贖(他、は四) 買ひ求む。かふ。買
賞をかけて募る。つる。

あか三まつ(赤鯨)(名) (動) なまつ「一種 全體赤褐色、
體長三寸許、頸部大にして尾部側扁、胸鰓の刺に觸るれば
人を驚らす、環流などに棲む。

あかにし(赤螺)(名) (動) 前鰓類の貝、介殼は獨樂狀を
なして螺線は著しく隆起し、外面は暗褐色にして内面は鮮紅
色、我國東海地方に多く産し、肉は食用に供せらる。さ
めて香るなる人。けらばう。

あかにまようれん(赤荷證券)(名) (商) 保險契約を附加
せる一種の船荷證券、朱字を以て印刷せらる。

あかぬけ(垢抜)(名) 垢抜(自、か下二) 垢とれてき
れいになる。あまろうとげなくなる。やぼくさくなくなる。

あかね(茜)(名) (赤根の義) 種 茜草科の蔓生草
本、莖は方形にして葉と共に刺あり、葉は長卵形又は長心形
にして、四齒づつ輪生し、長さ
葉柄を有す、花は淡黄色にして
七八月頃に開く、根は染料又は
藥劑として用ひらる。茜草
の根を粉にしたる暗赤色の染
料。あかねの根。——ろろ(茜色)(名) 赤の稍沈みた
る染色。茜草の根にて染めたる色。——さす(茜刺)(枕)
「日、晝、紫、君等に冠する枕詞。——すみれ(茜蓮)
(名) 種 薑菜科の多年生草本、我國各地に産す、葉は卵
形にして鈍鋸齒を有し、紅紫色の花を開く。——ぞめ(茜
染)(名) 茜色に染むこと。又、其染料。——もめん(茜
木綿)(名) 茜染の木綿。

あかね(赤練)(名) 赤色のねり絹。



【一】ねかあ

あかのたにん(赤他人)(名) 全くゆかりのなき人。

あかのやき(上野焼)(名) 陶器の一種、慶長年間、豊前國
上野村に於て、歸化朝鮮人上野尊階の燒き始めしもの。

あかは(明衣)(名) 天皇の御遊獵に奉仕する職人の著る衣。
あかはげ(赤禿)(名) 山嵐の御遊獵に奉仕する職人の著る衣。
なりたる。又、其山又は頭。

あかはた(赤旗)(名) 赤色の旗。又、赤化の旗。——志げ
事(赤旗事件)(名) 明治四十一年、山口義三の出獄歡迎
會に、主義者等が赤旗を持して、「テモ、山口義三の出獄歡迎
會に、主義者等が赤旗を持して充血し、赤色を呈した
るもの。衣服を脱ぎ肌をあらはすとす。

あかはだ(赤肌)(名) 皮膚むけて充血し、赤色を呈した
るもの。(種)はだか裸き。

あかはだ(赤肌)(名) 陶器の一種、正保年間、大和
國赤膚山にて野々村に傳の燒き始めしもの。

あかはち(赤恥)(名) あらはなる恥辱。

あかはち(赤蜂)(名) (動) あかすぢばち。

あかはつだけ(赤初茸)(名) 種 初茸の一種、早く生じ、
頭部の紅色を帯びたるもの。

あかはな(赤花、柳葉菜)(名) 種 柳葉菜科の多年生草
本、山地の水邊に生ず、莖高一
尺餘、葉は長卵形にして鋸齒を
有し、初は綠色なれど葉赤色に
變ず、夏日、葉柄葉腋に小形の
紅花を開く、花後に莢を結ぶ、
種子は一端に長毛を有す。

あかはな(赤花)(名) 紅花にて染めたる色。あかいは
あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。

あかはな(赤鼻)(名) さくろばな。



【なばかあ】

あかはら(名) うま、いつはり。(奥州の方言)。

あかひき(赤蟻蝮)(名) (動) あかがへる。

あかひき(赤引赤熱)(名) (動) 春蚕の一品種、成熟すれ
ば體縮赤色を呈す、體大なれど、飼育容易ならず。

あかひきのいと(赤引絲)(名) 伊勢神宮の六月十二月
の月次祭に關連して、神衣を繕るに用ふる光輝うるはしき絲。

あかひげ(赤髯)(名) 赤色のひげ。歌米人をいやしめ
て呼ぶ稱。(動) 燕雀類の小鳥、形は鶉鳥の如く、頭より背
にかけては赤褐色、下部は藍色にして、雄は喉より
下黒し、箱鳥として愛玩せらる、琉球に産す。りうきうごま。

あかひも(赤紐)(名) 小豆衣。(種)
に著けてかざる紐。——の(赤紐)
之(枕)「ながきに短する枕詞。

あかひゆ(赤葛)(名) 種 葛の類、
種 葉赤赤色。

あかぶち(赤斑)(名) 赤色の斑紋。

あかべた(赤下手)(名) まことの下手。

あかぼう(赤帽)(名) 赤色の帽子。汽車停車場に
て、乗客の依頼を受けて、荷物を持ち運ぶ人夫、赤色の帽子を
かふる。「赤きもの。

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色
あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかぼう(赤坊主)(名) 種 小麥の穂穂、初の色

あかは(赤練)(名) 赤色のねり絹。

あかは(赤練)(名) 赤色のねり絹。

あかまーあかむ

あかまいし【赤間石】一名【竈】あづき色の石、最も上等なるものは紫色を帯ぶ、長門國厚狭地方に産し、赤間關より積み出たず、硯材又は庭石とす。

あかまぐさ【赤間草】一名【植】さばあらさき。
あかます【赤鱈】一名【鮫】喉鰓類の魚、形は鱈に類す、體は藍色にして、肉は紅色を帯ぶ、淡水に産す。

あかまたら【赤斑蚊】一名【蚊】蚊の一種、普通の蚊より稍小、全體淡褐色、眼、脚に褐色の輪紋あり。

あかま【赤松】一名【植】松の一種、山野に自生す、樹皮は赤褐色、二葉一節より生じ、葉質固からず、木材は種々の用に供せられ、ま樹幹より樹脂を採取す、觀賞植物としても栽培せらる。めまつ。

あかまひ【赤舞】一名【植】烟草の名、あかつち。
あかまへたれ【赤前垂】一名【赤】赤紅暗の前垂、又、それをつけたる飲食店、旅館などの下牌。

あかまる【赤丸】一名【自、ら四】あかむ。あからむ。
あかみ【赤味】一名【あか】あかま度合。一、ぼしる

あかみ【赤味走】一名【自、ら四】赤き色あらはる。あかみさす。
あかみ【赤身】一名【肉】肉の赤きところ。材木の中心の赤きところ、質は比較的堅牢なり。心材。

あかみそ【赤味噌】一名【佛】佛に供ふる味噌。
あかみづ【開伽水】一名【佛】佛に供ふる水。

あかみむし【赤うろ】一名【動】蛾の一種、體長一分半、頭胸は茶褐色にして灰白色の斑紋散在し、腹部は濃灰色なり、幼蟲は九月間、繭質の中に棲み、其種子を食し、翌年五月頃羽化す、繭の質も質なり。

あかむし【赤】一名【自、ま四】あかむ。あからむ。
あかむし【赤】一名【他、ま下二】あかす。うやまふ。
あかむし【赤】一名【他、ま下二】おそれあふ。たふとび。
あかむし【赤】一名【皮】皮膚すむけて赤くなる。

あかむつ【赤鱈】一名【動】硬骨類の魚、むつに似て赤褐色を帯ぶ、體長二尺餘、深さ八十等乃至三百五十等の海底の岩礁に棲む。(ろ)おひかは。

あかむらさき【赤紫】一名【あか】あかみを帯びたる紫。

あかめーあから

あかめ【赤女】一名【動】(一)硬骨類の魚、背部は蒼色に赤色を帯び、腹部は暗白色なり、體長數尺に略同じ、多く西海に産す、卵果實が大にして、これを乾製したるものを「からすみ」と稱す。めだた。(ろ)たり(鱈)。

あかめ【赤目】一名【赤】赤みを帯びたる目。【赤】眼病の一種、眼珠虹彩の色素の先天的に缺之せるもの。【下まぶら】指にて引き、赤き眼を見て、眩せざるを指示す。あかべい。【だひり】赤目鯛一名【動】硬骨類の魚、體は橢圓形をなし、鱗は甚だ小なり、體色紅にして、體長一尺三寸許に達す、近海に産す。一、ふく【赤目河豚】一名【動】「小」の一種、背は紅黄色にして褐色の斑點あり、腹部白く、眼は金色を帯ぶ、肉は美味なれど、卵巢に斑毒を含む。

あかめがし【赤芽柏】一名【植】大戟科の密葉莖木、山野に自生す、幹は高さ二丈に達す、芽の色赤し、葉は掌狀に分裂す、夏日、枝梢に黄白色の總狀花を開く、雌雄異株、果實は外面に軟刺多し、木材は種々の用に供せらる。

あかめがし【赤斑瘡】一名【病】はしか。
あかめ【赤】一名【植】福藻類の海藻、沿海の暗礁に生ず、莖は丈餘に達す、細き枝を出して、一寸許の線狀葉を著く、肥料とす。

あかめ【赤百舌】一名【動】百舌の一種、頭部より尾部に至る迄、體に濃き赤褐色を呈す。

あかめ【赤】一名【植】石唐松科の常綠灌木、高山の石間に生じ、高さ尺餘に過ぎず、莖に褐色の毛生じ、葉は卵形にして厚し、夏日、花梗を抽き、鐘形の小花を下垂す、質は固くして紅紫し、味甘。

あかもの【贖物】一名【罪】罪をあがなふ料として、該除(一)の時に出だしのもの。

あかもん【赤門】一名【朱塗の門】あめりもん。【東京帝國大學の俗稱、其通用門は、もと侯爵前田邸の御守殿門にして、朱塗なるよりいふ、一、出。一、は、赤門派】一名【東京帝國大學の出身者】。

あから【赤】接頭、赤色なる意を表はす語。一、がほ



【あかめ】

あからーあかり

あから【赤額】一名【赤】赤みを帯びたる額。

あから【赤】一名【赤】赤みを帯びたるさま。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。

あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。
あから【赤】一名【赤】赤(形、一)赤くあり。